

報告

2007年度徳島大学全学FD推進プログラムの実施報告

曾田紘二、宮田政徳、川野卓二、神藤貴昭
(徳島大学 大学開放実践センター)

1. はじめに

本年度は、第2期全学FD推進プログラム(3ヵ年)の3年目で、最終年である。前年度に引き続いてFD基礎プログラム、FDリーダーワークショップ、授業コンサルテーション・授業研究会、FDラウンドテーブル、大学教育カンファレンス及び教育の質を向上させるための学生ワーキンググループからなるプログラムを実施した。

初任者研修としての基礎プログラム及び授業コンサルテーション・授業研究会、ファシリテーター養成プログラムとしてのリーダーワークショップ、話題提供者を囲む懇談の場としてのラウンドテーブル、特色ある教育実践発表の場としての大学教育カンファレンス、Student Developmentの場としての学生WGという位置づけによって、各プログラムの役割が一層明確になり、体系的が高まった。

これらのプログラムは、アンケート結果及び授業コンサルテーション等における状況から見て、概ね所期の成果を挙げたと言える。また、今年度も学務系事務職員の研修を同じ会場で並行して実施し、教員と学務系事務職員の協働という点で一定の成果をあげた。しかしその一方で、FDの日常化という側面に関しては、前年度同様実現にはほど遠いと言わざるを得ない。相変わらず参加者の少なさが続いている。こうした問題は、教員のFDに対する抵抗感が強い中で、明確なインセンティブも強制力もないまま実施することのもつ限界を示している。2008年度からは大学設置基準が一部改正され、学士課程教育についての教員研修が義務化され、この点においてFDをめぐる学内状況にも変化が期待できる。このような、いわゆるFDの義務化をふまえて次年度のFDにおいては次のことを実現し、徳島大学FDの一段のブラッシュアップを図る必要がある。

- (1) 全学FDと学部・大学院FDの実質的な連携の推進
- (2) FD・SDの協働の推進
- (3) 各プログラムの目的の一層の明確化と体系化
- (4) 参加者にとって直接的実質的有用性をもたせるようなプログラムの工夫
- (5) FDプログラムへの参加認証と評価システムの検討
- (6) 実施組織の継続的検討

大学教育委員会、FD専門委員会、学部FD委員会、大学開放実践センターおよび学務部の連携のもとにこのような改善を進めることによって、徳島大学FDが真に全学的なものになり、また、大学スタッフ一人一人の課題となり、FDの一層の発展が実現できるものと考えられる。

2. FD基礎プログラム

ここでは、企業等から採用、または助手からの昇任によって、新たに徳島大学で授業を担当されることになった教員を対象者として実施した「FD基礎プログラム」について報告する。

a. ねらい

今年度のこのプログラムは次の4点を目標に実施した。

- ① 徳島大学全学FD活動の理念と活動計画を理解する。
- ② 授業を計画し、実施し、評価する方法を体得する。
- ③ 授業研究の仕方を理解し、実践できるようになる。
- ④ FDの共同実践者として仲間づくりができる。

b. 概要

■開催期日

2007年6月16日(土)

午前8時30分徳島大学出発

2007年6月17日(日)

午後5時00分徳島大学解散

■会場

独立行政法人「国立淡路青少年交流の家」
(兵庫県南あわじ市阿万塩屋 757-39)

■対象者

企業等からの採用者及び助手からの昇任者。
参加者は以下の通りである。学部別に見ると、
総合科学部1名、医学部5名、薬学部4名、工
学部11名、合計21名である。

氏名	所属
山本裕史	総合科学部
今中秀光	医学部
馬 寧	医学部
太田浩子	医学部
奥田紀久子	医学部
梅野真由美	医学部
東 満美	薬学部
吉田賀弥	薬学部
吉田昌裕	薬学部
吉村好之	薬学部
間世田英明	工学部
川崎祐	工学部
八房智顯	工学部
山中亮一	工学部
森田和宏	工学部
宇都義浩	工学部
野田稔	工学部
陶山史朗	工学部
北條昌秀	工学部
村井啓一郎	工学部
敖 金平	工学部

■運営メンバー

大学開放実践センター長の他、大学開放実践セ
ンター教員5名、計6名で運営した。

氏名	所属
曾田紘二	大学開放実践センター長
川野卓二	大学開放実践センター
宮田政徳	大学開放実践センター
神藤貴昭	大学開放実践センター
鈴木尚子	大学開放実践センター
奈良理恵	大学開放実践センター

■学外講師

氏名	所属
夏目達也	名古屋大学
佐藤浩章	愛媛大学

■オブザーバー

氏名	所属
川島啓二	国立教育政策研究所

■事務局

氏名	職名
中本純晴	学務部長
井上直志	学務課長
安藤松太郎	学務課課長補佐
三好信幸	学務課総務係長
福川利夫	学務課教育企画係長

■内容

2日間にわたって以下のプログラムを実施した。

2007年度FD基礎プログラム日程

第1日(2007年6月16日・土曜日)

9:30 国立淡路青少年交流の家に到着・記念写真撮影

時刻	内容	講師・担当者	場所
9:30-10:00	・鍵の受け渡し、部屋の確認		第7研修室
10:00-10:30	(1)オリエンテーション ・徳島大学とFD・SDへの期待、新任教員への期待 ・研修のねらいと意義 ・進め方とスタッフ紹介	副学長(教育担当) 川上博 大学開放実践センター長 曾田紘二 (進行) 川野卓二 神藤貴昭	第7研修室
10:30-11:00	(2)アイスブレイキング	川野卓二	第7研修室

大学教育研究ジャーナル第5号(2008)

11:00-11:45	(3) WS「良い授業とは」 ・学生から見た良い授業・悪い授業 (学生アンケートの分析) ・グループ別発表	宮田政徳	第7研修室
11:45-13:00	昼食(12:20~12:50) 休憩		食堂
13:00-13:30	(4) 講義「講義の仕方・話し方・展開の仕方」	川野卓二	第7研修室
13:30-14:15	(5) 講義「授業の計画から実施まで」	神藤貴昭	第7研修室
14:15-14:30	コーヒープレイク		
14:30-18:00	(6) WS=「ミニ授業の計画と準備」 ・演習課題①(各自シラバス・1回分の授業計画を作成) ・演習課題②(1回分の授業の教材の作成:パワーポイントでできるだけ12枚以内) ・演習課題③(各班で互いの授業発表) ・明日の授業者決定	センター教員全員 夏目達也 (名古屋大学)	第7研修室 特別第1研修室
18:00-19:00	夕食(18:00~18:30)、風呂他(入浴時間16:00~22:00)		食堂・浴室
19:00-20:00	自由時間(適宜授業の準備、明日の授業者のシラバス・授業計画書のコピー)	コピーの際はセンター教員へ	第7研修室 特別第1研修室
20:00-21:00	交流会	宮田政徳	特別第1研修室

22:30 就寝及び消灯

第2日(2007年6月17日・日曜日)

時刻	内容	講師・担当者	場所
7:00-7:20	朝の集い		つどいの広場
7:30-8:30	朝食(7:45~8:10) 掃除(9:00 宿舎点検)		食堂・宿泊室
8:30-9:20	(7) WS=演習「ミニ授業発表の打合わせ」	センター教員全員	第7研修室
9:30-10:40	(8) WS=教員・事務職員協働ワークショップ	宮田政徳 学務部	第7研修室
10:50-12:00	(9) 講演 「名古屋大学のFD・SD活動-Webと小冊子の活用」	夏目達也 (名古屋大学)	第7研修室
12:00-13:00	昼食(12:20~12:50) 休憩		食堂
13:00-15:10	(10) 演習「ミニ授業」発表会 ●A班、B班、C班、D班によるミニ授業	川野卓二、神藤貴昭 鈴木尚子 夏目達也(名古屋大学)	第7研修室
15:20-15:50	(11) プログラムのまとめ ・修了証書授与 ・アンケート ・おわりの言葉	副学長(教育担当) 川上博 大学開放実践センター長 曾田紘二 (進行) 宮田政徳 神藤貴昭	第7研修室

16:00 バス発車 - 17:00 常三島キャンパス着、解散

■全体の流れ

オリエンテーションに続いて、参加者相互の親和を目指して「アイスブレイキング」を行い、グループ内でゲームをしながら、自己紹介をした。

はじめのワークショップでは、参加者21名が5～6名ずつの4班(A、B、C、D班)に分かれ、「良い授業とは」というテーマのもとに、あらかじめ用意された「良い授業、悪い授業」に関する学生アンケート結果から、学生からみた「良い授業」をグループ毎に分析し、その結果を模造紙に書いてまとめ、各グループ5分程度で発表した。

初日の午後からは、実践センター教員の講師から「講義の仕方・話し方・展開の仕方」及び「授業の計画から実施まで」という講義を受けた。その後夕方までの各グループ別ワークショップではこの講義を基に、ミニ授業に向けて個人別ワークとして自分の授業の「シラバス・授業計画書・授業教材作成」を行った。そして夜の自由時間までに、各グループ内でお互いの授業発表会を行い、翌日のミニ授業発表者を決定した。

2日目の午前中9:30～10:40までは、基礎プログラム初企画の「教員・事務職員協働ワークショップ」が行われた。話し合われた内容は学生ワーキンググループからの要望事項にどのように、教員と事務職員は協力して対応したらよいかであった。そのテーマは、①学生に対する対応に問題がある一部の教職員をどうしたらよいか、②学生と教職員の交流が持てるようにはどうしたらよいか、であった。各グループから活発な発表があり、今後の大学での教育活動に大いに役立つ議論がなされた。その次のプログラムでは、名古屋大学高等教育研究センターの夏目達也先生より「名古屋大学のFD・SD活動—Webと小冊子の活用」という特別講演をして頂いた。その内容は名古屋大学のWeb上で公開されている、教員向けの「成長するティップス先生」の内容の紹介と、「ティップス先生からの7つの提案」という小冊子の紹介であった。この小冊子には、「教員編」・「学生編」・「大学編」・「IT活用授業編」・「教務学生担当職員編」の5種類があり、名古屋大学の学生・教員・職員がよりよい教育を実現するための提案と具体的なアイデアがまとめられているものである。

2日目の午後からは4班の代表者によるミニ授業発表会が行われた。A班は、工学部の間世田英明先生の「微生物制御法」、B班は、工学部の宇都義浩先生の「有機化学」、C班は、工学部の陶山史朗先生の「光と人の知覚」、D班は、工学部の八房智顯先生の「燃焼工学概論」であった。この4人の先生方にミニ授業を15分間発表してもらい、それに対する質疑、検討、討議を行った。

c. 成果と課題

■プログラムの到達目標に対する達成度について

[到達目標①：徳島大学の全学FD活動の理念と活動計画を理解する]

基礎プログラムと同じ会場で、同時並行して各学部のFD企画・実施担当者による「FDリーダーワークショップ」が行われ、ここでは徳島大学の「全学FD活動の理念」と各学部の「FD企画の立案と実施」が話し合われた。また昨年度に引き続き、学務系事務職員の職員研修(SD)も同時進行して行われ、今年度は学務系事務職員の現状と課題についての「教員・事務職員協働ワークショップ」が開かれた。2日間のプログラムの中でこの3者が顔を合わせたのは、最初のオリエンテーションの「徳島大学とFD・SDへの期待、新任教員への期待」と夜の交流会および学外講師による講演会であった。その他、基礎プログラム参加の教員と事務職員は「教員・事務職員協働ワークショップ」で、基礎プログラム参加の教員とFDリーダーは「ミニ授業発表会」で交流することができた。このFDリーダー・SDとの交流で基礎プログラム参加者も徳島大学全体のFD活動が十分理解できたと思われる。

[到達目標②：授業を計画し、実施し、評価する方法を体得する]

授業担当者は、授業という教育活動が「目標設定、目標実現のためのシラバスと教材の作成、授業実施、授業評価」から成る一連の流れによって構成されていることを意識し、さらに、これらを実際に行うことができる力をつけることが重要である。「FD基礎プログラム」は、講義とワークショップ及び模擬授業発表によってこの目標を達成しようとするものであり、今年度も、プログラム

のこのような意義と目標が、昨年度と同様に良く理解されていた。実施6年目となり全学FDのプログラムが学内的にかなり周知、認知されてきたものと考えられる。

会場については、今年度は全体発表のための部屋とともに、参加者が少数だったこともあり、グループ数だけワークショップを行う研修室が確保でき、参加者はグループごとの準備をスムーズに行えた。また、プログラム全体の進行もFDマネージャーを初めとする事務職員の協力のおかげで支障なく行えた。グループワークにとって、グループごとに独立した部屋を確保できたことは重要である。

〔到達目標③：授業研究の仕方を理解し、実践できるようになる〕

プログラムの最後に、各グループがワークショップを通じて作成した授業を発表し、その発表をめぐって授業研究会を行った。前年度と同じく、授業研究会は次のような手順で行った。

1. 授業発表グループのメンバーによる授業内容の紹介
2. 模擬授業（ミニ授業）の形で授業発表グループの授業発表者による授業
3. 発表グループ以外のグループ代表（コメンテーター）による模擬授業に対するコメント
4. 全体討議

ほとんどの参加者は、この模擬授業によってはじめて大学での「授業研究会」なるものを経験したと考えられる。従って、授業研究会の手続きを知り、その手続きに従って実際に授業研究会を行ったことには大いなる意義がある。このような経験によってはじめて自分の授業を客観的に対象化し、意識化できるからである。

ここでの、模擬授業を基にした授業研究会は、8月から3月にかけて実施される「授業コンサルテーション」に引き継がれ、基礎プログラム参加者がカリキュラムの中で実際に行う自分の授業について、授業検討会が行なわれる。このような展開を通じて授業そのものの改善を図るとともに、「授業研究」についての認識と実施方法を、一層確かなものとして身に付けることが出来るようになる。

〔到達目標④：FDの共同実践者として仲間づくりができる〕

今年度のプログラムの参加者21名は総合科学部、工学部、医学部、薬学部から参加していたが、4つの各グループは各学部の枠を越えた構成だったので、ワークショップを通じて学部を越えた横のつながりができ、交流を深めることができた。さらに初日の夜の交流会では基礎プログラム参加者は、各学部のFDリーダーや各学部の学務系事務職員と交流し、今後FDの共同実践者としての仲間づくりが大いに達成できたと思われる。

■計画から実施までの経過と改善について

授業技術に関する講義とワークショップ及び授業発表などの実践の組み合わせはプログラムとして有意義だったと思われる。また、今年度は前年度参加者からの要望に応じて、ミニ授業のテーマを昨年度までの一般的なテーマではなく、参加者が自分の専門領域に関わるテーマを選べるように設定した。その結果自分の専門領域に関わるミニ授業ができ、概ね好評であった。もっと事前に教材等を準備しておきたかったという意見が多かったほどである。

今年度はノートパソコン、液晶プロジェクター、プリンター、コピー機等の機器及び文具を十分用意して、テーブルに配置し、自由に使用できるようにした。参加者もほとんど各自のノートパソコンを持参してプレゼンテーションに使用し、シラバスや授業計画書もパソコンで作成されていた。教材作成のためのインターネット環境に関しては、現在の会場ではLANケーブルの接続ができず、これは今年度も叶わなかった。ただ「淡路青少年交流の家」の事務室で1台だけ借りられることはできた。また、会場は前年度と同じであったが、食事、作業環境、自然環境など、昨年度と同様に参加者には概ね好評だったと思われる。

d. FD基礎プログラム2007アンケート集計結果

(1) 今回のFDプログラムの内容について

- ・久しぶりに他の先生が学生向けにされる講義を拝聴することができました。偶然、工学部で他学科の先生ばかりでしたので、自分が共通教育

で受講していたころを思い出しながら聞きましたが、当時と比べて格段にわかりやすく、表現豊かで、学生は幸せであると思います。但し、

「授業内容が分からないのに試験期間が迫ってくるので、『必死になって考える』ことをしなくなってくるのかもしれない」とも感じました。

- ・かなりハードです。交流会でもほとんど他の方と話す機会がありませんでした。前もって授業の準備・シラバス・計画書を提出する形にして下さい。
- ・いろいろなFDプログラム内容が組まれており、大変勉強になりました。
- ・勉強になり良かったが、講義経験の有無で取組が異なっても良かったのではないかと思う。(経験がなかったのとまどいがあった)
- ・これまで、大学の授業に関する具体的な研修がなかったので、よい機会だと思う。
- ・ミニ授業への準備時間が少ないと感じます。皆さんお忙しいと思いますので、少し講義時間を削って、準備時間を増やすなどの方策が必要と思います。
- ・WSに関しては、事前に何をやるかが、全く分からなかった事もあり、手際よくできなかつたと感じています。
- ・大変充実した時間を過ごすことができました。
- ・時間内でできる内容でしていただきたいです。事前の宿題は大変負担です。
- ・授業の組み立て、運営について、考え直す良い機会を与えていただきました。「良い授業とは」のWSで、先に模範解答を示された点は、できれば避けていただきたいかったです。
- ・非常に中味の濃いプログラムでした。他学部や他学科の先生方との交流も大変刺激になりました。今後もぜひ継続してほしいと思います。
- ・明日から使えるテクニックや工夫などを期待していましたが、初心者どうしが評価しあうミニ講義がメインで目的に合っていたか。
- ・アウトプットばかり求められ大変つかれた。
- ・適切
- ・内容は盛りだくさんでしたが、交流を深めることができ大変よかったと思います。
- ・他領域、事務職員の方々との意見交換は刺激に

なりました。

- ・講義、講演、ミニ授業は、多少参考になったと思います。WSについてもおもしろいと思いますが、まとめにならないことですので、それより、模範授業(ビデオでも)とその解説、FDの研修成果などを見せれば、もっと役にたつと思います。
- ・ミニ授業は時間の関係もあり、15分の授業で行われたが、実際の90分の授業とはかなり異なるものであるように感じました。参考になる部分も多々ありましたが、90分の授業には又異なるノウハウもあるように思います。(川野先生のプログラム(4)でも少しふれられていたが。)
- ・学部の先生と知り合いになれば、また、その先生の方々の仕事に触れることができ、非常に有意義でした。
- ・内容は必要十分だったと思うが、ミニ授業に対する準備時間がプログラム内(2日間)では短かったので研修前の準備でもう少し当日の情報をいただければと思う。
- ・大変充実して参加してよかったと感じたが、もうすこしテクニック等の指導をして頂けたら幸いです。時間もタイトでつかれました。
- ・“ミニ授業”という企画はよいが、負担が大きすぎる。内容も参加者が専門ジャンルを各自で用意するのではなく、運営側がもっと用意しておくべきだ。(→発表後のディスカッションでも、話題が学問的な議論となりがちだ。本来は、方法論の議論に徹すべきだ。)
- ・新鮮であったが、2日間を要するか疑問である。1日ですませてほしい。

(2) 今回のプログラムの運営について

- ・「当日に作業(シラバス作成等)を全てするように考えていると大変ですよ」と一言連絡下さっていたら良かったかもしれないと思いました。その他は全く問題ありません。快適でした。お世話になりました。
- ・開放実践センターのスタッフの方が非常に精力的で好感を持ってました。しかし、スタッフの方、リーダーなどと基礎のメンバーとの交流の機会ほとんどなかった。特に女性の学務課職員の方

若い方のモチベーションの低さには落胆した。

- ・ややハードであり、作業が時間内になかなか終わらなかったのも、ある程度、事前準備(ミニ授業はネタだけでは発表準備時間が足りませんでした)が必要だったかと自分でも反省しています。
- ・時間がタイトすぎて楽しめる気分が全くなかった(夜も)。お世話をされている方は大変だったと思います。お世話になりました。
- ・休憩がもう少しきちんと入った方がよい。せっかくの講義も集中力が切れてしまうところがあり、聞きもらした部分がある。
- ・大変な中、うまく運営されていると思います。
- ・全体的な運営方法に関しては大変良かったと思います。ただワークショップに関して、特に初日のWSの時間配分が大変短いのでは、と思いました。
- ・連絡がメールで細かくしていただけるのはありがたいですが、同じものが送付されて変更になった点などがわかりにくいです。変更されたところのみの資料の送付 or 変更された所にマークをつけていただくとすべて目を通さなくてよいのでたすかります。
- ・スムーズに事が進み、特に問題は感じませんでした。
- ・プログラムの密度が濃くてなかなか休めなかったのですが、むしろそれが良かった気がします。運営事実は非常にスムーズだったと思います。
- ・合宿形式は講義期間中にはキツイ。なぜ6月なのか。8月9月で良いのでは。合宿でなくても実施できたと思います。
- ・良
- ・適当であったと思います。ありがとうございます。
- ・WSがおおいと思います。時間的にきびしかった。交流機会が少ない。
- ・スムーズでした。努力に感謝いたします。
- ・ご苦労様でした。本当によい時間をすごせました。
- ・特になし
- ・自分のパソコンが故障したとき、お貸し頂き大変助かりました。特に不都合はありませんでし

た。

- ・全体に“参加者”主体が多すぎる。→ミニ授業にしても、教材を事前に準備しなければならなかったし、当日のプランもタイトだ。これでは負担感のみが残る。
 - ・他の方、違う畑の研究者の方々と話したり、講義をきけたのは大きな収穫である。
- (3) 今回のプログラムの会場について
- ・距離、設備とも適切だと思います。
 - ・少し時間がタイトな上、缶詰状態でほとんど食事くらいしか楽しみがないにもかかわらず、‘ひどかった’です。価格を上げてもいいのももう少しオリティの高いものを……。あと和室にして消灯しなくていいところを選ぶべき。
 - ・施設は良かったと思います。ただ、パソコンで作業するため、コンセントが少ないため、もう少し延長コード等があれば良かったかと思えます。また、研修室が10:30で消灯で使用できなくなったので、希望者がもう少し作業を続けられる場所があれば良かったかと思えます。
 - ・学生ではないので、せめて就寝時や休憩時には個室であってほしい。
 - ・徳島市内もしくは、徳島大学内の一室を使うことはできないか？
 - ・良い会場だと感じました。
 - ・研修するための施設「青少年交流の家」でしたので研修室等も充実しており、大変良かったと思います。本施設の利用は大学生の時以来で、少し懐かしい気分ひたることができました。
 - ・適度に隔離されており、特に問題は感じませんでした。
 - ・周りの環境もよくきれいな施設でした。
 - ・ネットが使えない。プログラムに必要なスペックをみたしていない。
 - ・資料作成 etc に個人の必要時間が異なるため(費用が必要だが)プライバシーが守れない。他人の睡眠をさまたげるようなことが多々あり。→翌日の集中力が低下。
 - ・小・中学生にいやされました。
 - ・よかった。
 - ・すばらしい場所です。
 - ・非常によい。

- ・宿泊費出すからホテルで行ってほしいと出発前は思ったが今はこれでよかったと思う。
- ・夜の飲み会の時間が短すぎるのが不満です。(もっと交流したかった)
- ・一泊する必要はない。
- ・FDを定着させるなら、負担と経費を軽減するようにするべきだ。
- ・遠い。隔離する必要があるか？

(4)その他お気づきの点があればご記入ください

- ・お願いだから前期の途中に実施するのは勘弁して下さい。夏休み or 春休みにできませんか？また若手だけでなく中堅・ベテランでFDを受けべき人がかなりいるように思います。不公平感がないように、全員が参加する方向にしてほしい。
- ・教育方法について、参考になり、今後の授業に生かしていこうと思います。ありがとうございました。
- ・日々の業務でフラフラだとあまり効果が期待できないかもしれない。夏休みシーズンなどすこし大学行事のない時期などの方が効果的なFDができたかもしれない。
- ・懇親会が、時間制限のため余裕が無かったのが残念。
- ・良い授業例ではなく、悪い授業例の模範を示していただくと、印象に残りやすいと考えます。
- ・本プログラムの運営にたずさわった方々に心より御礼申し上げます。
- ・交流会で一言のメールは「外部から来た」といわれとてまいやでした。ウォッチングされる感じがしました。時間がなければならぬじなどの方法をしていただくといいのではないのでしょうか？
- ・最後の話で、この研修を学部単位にシフトしたい旨の話をしていましたが、他の学部の方とも話し、考えを共有できることとして意義を感じます。全学的なものとして存続されることを望みます。
- ・大変お世話になりました。来る前は憂うつでしたが、機会があればまたぜひ参加したいと思います。
- ・アンケートを記入するための時間が少ない。

- ・やはり参加者全員の方々の仕事内容やプレゼンを聞いたかった。
- ・発表時間を短くしてもいいので、全員の授業の工夫が聞いたかったです。
- ・もう教育のFDは充分な域に達しているのでは。
- ・スタッフの苦勞が感じられた。ご苦勞さまでした。

(5)今回のプログラムに参加して、教育への関心が高くなりましたか？

yes 19 no 0 無記入 1

3. FDリーダーワークショップ

a. ねらい

全学FD推進プログラム第2期の3年目である今年、リーダーワークショップでは、到達目標、内容、対象者等、昨年度から開始したプログラムを引き続き実施した。

対象者は、10年以上の教育経験を有し、各学部・学科でFD企画を立案・実施する立場の教員とし、FDニーズの把握から企画の立案及びプログラム評価の方法までを、レクチャーとワークショップを通じて体得し、FD企画の立案能力を向上させることを目標とし、プログラムはFD中四国ネットワークで開発したFDファシリテーター養成プログラムを引き続き使用した。これまで以上に、明確な目標を設定し、実践的内容をもったプログラムを実施した。

当日は、愛媛大学教育・学生支援機構の佐藤浩章先生をファシリテーターとしてプログラムを実施した。

b. 概要

■開催期日

2007年6月16日(土)～6月17日(日)

■会場

独立行政法人「国立淡路青少年交流の家」
(兵庫県南あわじ市阿万塩屋757-39)

■対象者

参加者は各学部推薦による下記教員である。

氏名	所属	職名
川上 博		副学長
石田三千雄	総合科学部	教授
日置善郎	総合科学部	教授
高橋 章	医学部	准教授
關戸啓子	医学部	教授
羽田 勝	歯学部	教授
尾崎和美	歯学部	教授
大高 章	薬学部	教授
田中秀治	薬学部	教授
河村保彦	工学部	教授
小西克信	工学部	教授

学外講師

氏名	所属
佐藤浩章	愛媛大学
夏目達也	名古屋大学

■運営メンバー

佐藤浩章先生(愛媛大学)と曾田紘二(徳島大学)の2名で運営した。

■内容

2日間にわたって次のプログラムを実施した。

第1日(2007年6月16日・土曜日)

9:30 国立淡路青少年交流の家に到着・記念写真撮影

時刻	内容	講師・担当者
9:30-10:00	・鍵の受け渡し、部屋の確認	
10:00-10:30	(1)オリエンテーション ・徳島大学とFDへの期待、新任教員への期待 ・研修のねらいと意義 ・進め方とスタッフ紹介	副学長(教育担当) 川上 博 開放実践センター長 曾田紘二 (進行) 宮田政徳 神藤貴昭
10:30-11:00	(2)アイスブレイキング	曾田紘二
11:00-11:45	(3)FD企画の立案と実施I「ニーズの把握」	佐藤浩章
11:45-13:00	昼食(12:20-12:50) 休憩	
13:00-14:45	(4)FD企画の立案と実施II「方略の選択、方略の手順」 中間期の振り返り演習	佐藤浩章 曾田紘二
14:45-18:00	(5)FD企画の立案と実施III「情報収集の仕方と実践」 (6)FD企画の立案と実施IV「企画書・プログラムの作成」	佐藤浩章
18:00-19:00	夕食(18:00-18:30) 風呂他 (入浴時間16:00~22:00)	
19:00-20:00	自由時間	
20:00-21:00	交流会	

22:30 就寝及び消灯

第2日(2007年6月17日・日曜日)

時刻	内容	講師・担当者
7:10-7:20	朝の集い	
7:30-8:30	朝食、掃除(8:25点検・退室)	

8:30-10:00	(7)FD企画の立案と実施Ⅴ「評価の仕方」	佐藤浩章
10:00-10:45	(8)FDプログラム作成の仕上げ	佐藤浩章
10:50-12:00	(9)講演 「名古屋大学のFD・SD活動-Webと小冊子の活用」	夏目達也先生 (名古屋大学)
12:00-13:00	昼食(12:20-12:50) 休憩	
13:00-15:10	(10)演習「ミニ授業」発表会	川野卓二、神藤貴昭 鈴木尚子 夏目達也先生 (名古屋大学)
15:20-15:50	(11)プログラムのまとめ ・修了証書授与 ・アンケート ・おわりの言葉	副学長(教育担当) 川上 博 大学開放実践センター長 曾田紘二 (進行) 宮田政徳 神藤貴昭

c. 成果と課題

はじめに、プログラム終了直後にとった、参加者へのアンケート結果を示す。

(1) 今回のFDプログラムの内容について

- ・ こういうワークショップに(FDの会という意味)参加するのは初めてなので、最初は何の事か良く分らなかったのですが、下の(5)にあるように「FDプログラム作成能力の向上」が目的だったのかと思うと、良い企画であると思います。
- ・ とてもよかった。
- ・ 勉強になりました。
- ・ 大変参考になりました。
- ・ 時間が長いだけで、怠惰な感じがした。(特に2日目ミニ授業)
- ・ 初めての参加でしたが、とても充実したプログラムで大変有用でした。
- ・ リーダーと言うにはおこがましい初心者の私には、非常に参考になり、モチベーションを高められた内容でした。
- ・ プログラムが若干タイトでしたが充実した2日間が過ぎました。内容的にはよかったと思います。ミニ授業をすべてPower Pointでなく板書形式も導入したらどうでしょうか？(時間的問題はあると思いますが)
- ・ 全体としてFDとは何かということについてある程度内容がつかめた。

- ・ 「ミニ授業」の内容はすぐれたものが多くて、刺激になった。

- ・ (自分にとっては)新鮮な内容で充実した2日間でした。

- ・ 大変充実した内容のワークショップであったと思う。どちらかと言うと基礎プログラムの方の内容を聴きたかったのだが、リーダーワークショップに参加して、問題点の把握、議論の進め方などのノウハウが理解できた。

(2) 今回のプログラムの運営について

- ・ 運営は非常にいいで、よく配慮されていたと思います。
- ・ 忙しい計画で、内容が多い。
- ・ やっぱり、2日目はもう少し早く終わって欲しい。
- ・ よかった。
- ・ 時間配分が明らかに悪い。
- ・ スムーズな運営で申し分ございません。
- ・ 濃密で良かったのですが、ほとんど毎週末何かの用務がある身には、少々ハードです。
- ・ 時間の割り振り、進行等スムーズであったと思います。
- ・ 多くの内容が盛られていて、基礎プログラムは大変だったのではないかと。2日目の時間が少しきゅうくつだったのではないかと。
- ・ 特に大きな問題は感じませんでした。ご苦労様でした。

- ・大変良かった。自説の押しつけ的ワークショップではなく、全体の進行、空気をよくつかみ、各意見を尊重し臨機応変に対応されていた。指導者(佐藤先生)が大変力量のある方であると感じた。

(3) 今回のプログラムの会場について

- ・静かな所で良かったと思います。
- ・良い。
- ・他には何も問題ないですがインターネットが使えないのが不便です。
- ・よかった。
- ・特に意見なし
- ・天候にも恵まれ、少し体を動かせる時間(散歩など)もあっても良かったのではないかと思います。
- ・上記の理由から、1日帰りコースが可能ならば、そちらが私には better かな?
- ・プログラム会場はOKです。ただ夜もう少しおそくまで free に話ができただ方がよかったです。
- ・食事はよかったです。予算がつくなら、ホテルのような場所も考えられる。
- ・特に文句はありません。
- ・自然環境に恵まれ、徳島からの距離も適度でありすばらしい。食事も良かった。

(4) その他お気づきの点があればご記入ください

- ・趣旨とちがうのかも知れませんが、FDのプログラムというのは職員を集めて意見交換するには良いと思いますが、教育の根本にある問題(例えば学生の多様性や基礎学力低下)への対策には何も解決法を論じていないように思います。解くべき問題はそれなのではないでしょうか。
- ・2回目も参加したいと思う。
- ・バスがいつも常三島発ですが、パソコン等持参品が多くなったので蔵本→常三島→会場と回ってもらえないでしょうか。
- ・講師の先生の力が大きいと感じました。
- ・講演は眠くなりました。
- ・休憩時間を入れるのは当たり前。スケジュールが遅れているからと言って休憩を入れないのはもったいない。集中力が持続しない。

- ・川上副学長先生、曾田センター長先生、特別講師の方々、職員の方々はじめ、大変お世話になりました。とても勉強になりました。

- ・当該学部においても積極的にFDに取り組むべきと感じました。

- ・全学的な教員の交流の場としても位置づけてよいのではないかと。

- ・リーダーワークショップでの作品(?)も午後全員の前で発表しては如何でしょうか。

- ・土・日は疲れる。金・土くらいにしてほしい。振替休日を取らせてもらったが、こういう職業では、休日をもらっても(学生も来てるし、会議もあつたりするので)休めない。金・土なら、金は割り切ってこのプログラムに参加できるし、日曜日は休めるからありがたい。

(5) 今回のプログラムに参加してFDプログラム作成能力が向上したと思いますか?

yes-10 no-1

参加者へのアンケート結果に見られるとおり、プログラム、会場、運営について概ね好評であり、普段あまり経験することのない他学部の教員との交流も良い評価を得ている。

学部や学科でFDを企画する立場の参加者に対しては、所期の目的を十分に達成することができた。このプログラムのワークの中で、当該年度の学部FDプログラムを作成することが省力化につながり、学部・学科FD担当者にとって有意義なワークになったと考えられる。プログラムや設備の細部についてはアンケート結果を取り入れて可能な限り手直ししなければならない。

課題としては、今年度も参加者の人選の問題が挙げられる。今年度も基礎プログラムその他のFDプログラム未経験者がいきなりリーダーワークショップへ参加する例があったが、来年度からは各学部FD委員会委員が参加することになるので事態の改善が期待できる。部局FD実施の責任者という立場での参加を期待したい。

次年度に向けての課題は、徳島大学FD第3期計画(平成20~22年度)を実効あるものにするためにも、FDリーダーワークショップを真にファシリテーター養成の場にするのである。

4. 授業コンサルテーション

a. 授業コンサルテーションの目的

徳島大学では、全学FD推進プログラムの一環として、2005年度より「授業コンサルテーション」を実施しており、2007年度においても引き続き行った。2007年度は対象者は21名であった。授業コンサルテーションでは、合宿形式で実施した「FD基礎プログラム」(両年度とも6月に実施)の受講者、すなわち徳島大学で新しく授業を持つ教員を主な対象にした企画である。授業コンサルテーションでは、個々の教員の実情に沿った具体的な日常的なFDをめざしている。

b. 授業コンサルテーションの流れ

現在のところ、次のような流れで進めている。昨年度と同様である。

FD基礎プログラム参加者の授業への参観・VTR撮影・学生アンケート

↓

授業記録作成・学生アンケート整理

↓

授業研究会(発表・VTR視聴・議論)

↓

目的: 授業の把握、授業の改善、参加者間での授業技術の共有化

まず、センター教員とFDマネージャーが、各教員の授業を参観し、簡単なメモ(授業まとめ、時間経過、特筆すべき発言や出来事)をとりつつ、授業をVTRに収める。授業終了時には、学生へのアンケート(その日の授業で何を学んだかということと、授業に関する先生へのメッセージについて)を実施する。さらに時間があれば、教員に授業に関する簡単なインタビューを行う。

その後、VTRをもとに、センター教員が詳細な授業記録を作成し、それと平行して授業の主要部分の映像を編集し、DVDを作成する。授業記録は、時系列に沿って授業の展開過程(まとめ、何が話されているか、学生との相互作用、板書など)がわかるように作成した。DVDは授業の展開が分かるように、各まとめから数分間の映像

を抽出し、合計で20分強になるようまとめた。さらに、授業より数週間後、授業記録やDVD、学生アンケート結果をもとにした「授業研究会」を開催する。そこでは、様々な部局からの参加者を交えて、授業改善の知恵を出し合ったり、また授業からいろいろなことを学び合うことをめざした。

c. 授業研究会

授業研究会は以下のような手順で進めた。所要時間は全部で1時間20分ほどである。これも昨年度と同様の手順である。

簡単な説明(授業全体のねらい/この日のねらいなど: 対象者の先生より5分)

↓

授業DVD視聴

↓

授業参観者報告・学生アンケートから読めること(大学開放実践センター教員より5~10分)

↓

授業者解説(当日の様子/授業でうまくいっている点・お困りの点など各論: 対象者の教員より5~10分)

↓

自由討論(あるいは課題討論10~15分)

徳島大学に着任した新任教員のうち、授業をもたない教員などを除き、2007年度は13名の教員に対して授業コンサルテーションを行った。なお、授業研究会は、大学開放実践センター会議室、授業研究インテリジェントラボあるいは蔵本キャンパスの会議室で行った。2007年度の授業研究会は以下の通りである。

●第1回 8月16日

大学院ソシオテクノサイエンス研究部・ライフシステム部門 宇都義浩准教授『有機化学1』

議論内容: 分子模型の提示の仕方、試験問題の出し方、レポートの書き方に関する指導、熱心な学生とそうでない学生を同時に指導する方法、u-Learningによる復習の促進について等

●第2回 8月21日

